教科	家庭	科目	家庭総合	m,	単位数		2				
年組	1年1組		教科書(発行所)			1	家庭網	総合	自立・共生・創造(東京書籍)		
月	学習内容	学習の具体的な内容				田の都 思	観点 態	項目			
	学校家庭クラブ活動		学校家庭クラブ活動			74.	į	Ž	半型の日標		
4	第1章		(1)生涯発達の視点				0	0	学習の目標		
	自分らしい人生をつくる		(2)青年期の課題			0	0		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通し、		
			(2)青年期の課題				0	0	よりよい社会の構築に向けて男女が協		
			(3)目標を持って生きる				0	0	力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目標		
5			(4)人生をつくる			0			とする。 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食		
/			(5)家族・家庭を見つめる			0	0		住、消費生活等について、生活を主体 的に営むために必要な科学的な理解を		
			(0/3/4)/(3/4)/2 2 / 1 2 / 2 / 3			0		0	深め、課題を設定し、解決策を構想し、 実践しながら必要な技能を体験的・総合		
			(6)これからの家庭生活と社会			0		-	的に身に付ける。		
6						0		0	les allo e del co		
	第7章		期末考査				0	0	授業の進め方		
7	衣生活をつくる		(4)被服をつくる			0		0	1 生活を主体的に営むために必要な		
									知識を身に付け、実験・実習を通して基礎的な技術を身に付ける。		
							0		2 家庭科ノート・調理実習ノートを活用する。		
7			ホームプロジェクトの実施				0	0	3 話し合い活動や資料制作・発表を通 して、主体的に学習にのぞむ態度を身		
			(1)被服の役割を考える			0			に付ける。		
8 • 9			(2)被服を入手する								
			(2)仮版を八子9つ			0 0	0				
9			(3)被服を管理する			0		0			
			ONKIKETATIO			0	0	0	学習の方法		
/			(5)衣生活の文化と知恵			0	0		平素から自身や家族、地域の人々の		
						0		0	生活に興味・関心をもち、これまでの自分を客観的に振り返りながら授業に参画		
10									し、また、授業で学んだ事柄について普 段の生活を通して復習を行うことで、知		
			(6)これからの衣生活			\circ		0	識・技能の定着を図る。		
			(4)被服をつくる(振り返り)			\circ	0		自身や家族の生活を維持・工場させるためにはどうすればよいかを常に考え、		
							0		実践し、検証する。 さまざまな実験・実習に積極的に取り		
11	第3章						0		組み、基本的・発展的な技術を身に付		
/	高齢社会を生きる		(1)高齢期を理解する				0		ける。		
10			(2)高齢者の心身の特徴					0	評価の観点		
12	<u> </u>								1 知識·技能		
			(3)高齢者を支える				0		各分野において習得すべき知識や 技能を身に付けているか。		
12			(4)これからの高齢社会				0		2 思考・判断・表現 生涯を見通して課題を設定し、解決		
								0	策を考え、実践を検証し、考察したことを		
			高齢者体験・介護体験					0	科学的に表現するなどして課題解決力 を身に付けている。		
1								0	3 主体的に学習に取り組む態度 さまざまな人々と協働し、よりよい社		
Ι,	第5章						0	0	会の構築に向けて自ら課題に取り組むう		
${\hspace{0.025cm}/\hspace{0.05cm}}$	共に生き、共に支える		(1)私たちの生活と福祉					0	とする意欲や態度を身に付けているか。		
			(a) + 1 A / (B) ## A # A A A				0		評価の方法		
2			(2)社会保障の考え方				0		期末考査、ノート提出、各種レポート、授		
/			" (3)共に生きる						業態度、実習態度、実習時の技能や成		
			い方に正さる				0		果を総合的に判断する。		
3			(1)これからの生活を創造する								
【備考	5]										
※ 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。											

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数		2		
年組	1年2組・3組		教科書(発行所)				, _	自立・共生・創造 (東京書籍)
月	学習内容		学習の具体的な内容			Tの観	態	項目
	学校家庭クラブ活動		学校家庭クラブ活動について					学習の目標
4	第1章		(1)人生を展望する		0	0		生活の営みに係る見方・考え方を働か
	生涯を見通す 第2章		(2)目標を持って生きる		0	\circ		せ、実践的・体験的な学習活動を通し、
	カ2早 人生をつくる		(1)人生をつくる (2)家族・家庭を見っ	つめる	0	0		よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創
5	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		(3), (3), (3), (3), (3), (3), (3), (3),			0		造する資質・能力を育成することを目標 とする。
			(3)これからの家庭生活と社会			0		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食 住、消費生活等について、生活を主体
	第3章		(1)命を育む		\circ			的に営むために必要な科学的な理解を 深め、課題を設定し、解決策を構想し、
	子どもと共に育つ		(2)子どもの育つ力を知る			\circ	0	実践しながら必要な技能を体験的・総合
6			(3)子どもと関わる(4)子どもとの触れ合いから	ら学ぶ		\circ	\circ	的に身に付ける。
O			(5)これからの保育環境			\circ		授業の進め方
			ホームプロジェクトの計画			\circ	0	
7						\circ		1 生活を主体的に営むために必要な 知識を身に付け、実験・実習を通して基
								礎的な技術を身に付ける。
	第4章		(1)超高齢社会を共に生きる		\circ			2 家庭科ノート・調理実習ノートを活用する。
7	超高齢社会を共に生きる		(2)高齢期の心身の特徴				0	3 話し合い活動や資料制作・発表を通して、主体的に学習にのぞむ態度を身
			(3)これからの超高齢社会					に付ける。
8 • 9	第6章		(1)食生活の課題について考える		0	0		
	食生活をつくる		(2)食事と栄養・食品		0			
9			調理実習①		0			
			(3)食品の選択と安全		0	0		学習の方法
			(4)生涯の健康を見通した食事計画		_	0	0	亚丰志 (自自內字性
			調理実習②	-	0			平素から自身や家族、地域の人々の 生活に興味・関心をもち、これまでの自
10			(5)調理の基礎(6)食生活の文化と知	忠				分を客観的に振り返りながら授業に参画 し、また、授業で学んだ事柄について普
10			(7)これからの食生活			0		段の生活を通して復習を行うことで、知 識・技能の定着を図る。
	第7章		(1)被服の役割を考える(2)被服を入る	手する			0	自身や家族の生活を維持・工場させる
	衣生活をつくる		(3)被服を管理する(4)衣生活の文化と		0			ためにはどうすればよいかを常に考え、 実践し、検証する。
11	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		(5)これからの衣生活	,,,	0		_	さまざまな実験・実習に積極的に取り 組み、基本的・発展的な技術を身に付
	第10章		(1)持続可能な社会を目指して		0			組み、基本的・発展的な技術を対に的ける。
	持続可能な生活を営む					0		
12								評価の観点
								1 知識・技能 各分野において習得すべき知識や
	第8章		(1)住生活の変遷と住居の機能		\circ			技能を身に付けているか。
12	住生活をつくる		(2)安全で快適な住生活の計画		\circ			2 思考・判断・表現 生涯を見通して課題を設定し、解決
	第9章		(3)住生活の文化と知恵(4)これからの信	主生活				策を考え、実践を検証し、考察したことを科学的に表現するなどして課題解決力
	経済生活を営む		(1)情報の収集・比較と意思決定			0	0	を身に付けている。
1			(2)購入・支払いのルールと方法			0		3 主体的に学習に取り組む態度 さまざまな人々と協働し、よりよい社
			(3)消費者の権利と責任		0	0		会の構築に向けて自ら課題に取り組もう
			(4)生涯の経済生活を見通す			0		とする意欲や態度を身に付けているか。
	第5章		(5)これからの経済生活		0			評価の方法
2	共に生き、共に支える		(1)私たちの生活と福祉		0	_		サナス末 , 1月川 夕経 , ぷ 1 ゼ
			(2)社会保障の考え方			0		期末考査、ノート提出、各種レポート、授 業態度、実習態度、実習時の技能や成
			(3)共に生きる		0			果を総合的に判断する。
3	第11章							
【備考	21. 7							
	- 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛	媛県教	育委員会)による。					

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	Č	2		
年組	2年1組		教科書(発行所)		家	庭総	合	自立・共生・創造 (東京書籍)
月	学習内容		学習の具体的な内容		評価知	田の勧 思	観点 態	項目
4	第6章		(1)食生活の課題について考える			0	0	学習の目標
4	食生活をつくる		調理実習①				0	生活の営みに係る見方・考え方を働か
/	A)	せ、実践的・体験的な学習活動を通し、 よりよい社会の構築に向けて男女が協
ľ			(2)食事と栄養・食品		0		0	力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目標
5								とする。 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食
/			調理実習②		0		0	住、消費生活等について、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を
			(3)食生活の安全と衛生				0	深め、課題を設定し、解決策を構想し、
			"				_	実践しながら必要な技能を体験的・総合 的に身に付ける。
6			(4)生涯の健康を見通した食事計画		0	0		極業の光は十
								授業の進め方
7			ライフステージと食事			0	0	1 生活を主体的に営むために必要な 知識を身に付け、実験・実習を通して基
		- 1	(5)調理の基礎			l		磁的か技術を身に付ける
7			(3)顽理の基礎				0	2 家庭科ノート・調理実習ノートを活用する。 3 話し合い活動や資料制作・発表を通
l			"					して、主体的に学習にのぞむ態度を身
8 • 9								に付ける。
9			(6)食生活の文化と知恵		0	0		
								学習の方法
/	Mar a ste		(7)これからの食生活		0	0		平素から自身や家族、地域の人々の
	第2章 子どもと共に育つ		(1)命を育む		0		0	生活に興味・関心をもち、これまでの自
10	すともと来に自う							分を客観的に振り返りながら授業に参画 し、また、授業で学んだ事柄について普
10			(2)子どもの育つ力を知る				0	段の生活を通して復習を行うことで、知 識・技能の定着を図る。
/						0	0	自身や家族の生活を維持・工場させる ためにはどうすればよいかを常に考え、
ľ			(3)親として共に育つ		0	0		実践し、検証する。 さまざまな実験・実習に積極的に取り
11					0	0		組み、基本的・発展的な技術を身に付
/								ける。
12								評価の観点
12			<u> </u>		1			1 知識•技能
			(4)子どもの触れ合いから学ぶ		0	0		各分野において習得すべき知識や 技能を身に付けているか。
12			(5)これからの保育環境		0	0		2 思考・判断・表現 生涯を見通して課題を設定し、解決
								策を考え、実践を検証し、考察したことを 科学的に表現するなどして課題解決力
	hite o when		(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(0	0		を身に付けている。
1	第8章 住生活をつくる		(1)住生活について考える (2)住生活の計画と選択		0		0	3 主体的に学習に取り組む態度 さまざまな人々と協働し、よりよい社
/	住生情をうくな		(3)住生活の文化と知恵			0	0	会の構築に向けて自ら課題に取り組もう とする意欲や態度を身に付けているか。
			(4)これからの住生活		0		0	
2	第4章		(1)私たちの生活と福祉		0		0	評価の方法
	共に生き、共に支える		(2)社会保障の考え方		0		0	期末考査、ノート提出、各種レポート、授 業態度、実習態度、実習時の技能や成
/								果を総合的に判断する。
3	第9章 生活を設計する		(3)共に生きる 生涯を見通す					
【備考						_		
*	評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛	媛県教	育委員会)による。					

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数		2					
年組	2年2組		教科書(発行所)				フー	・ドデザイン (実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容		評価知	Tの 思	観点 態	項目				
	1章		1節 食事の意義と役割					学習の目標			
4	食生活と健康		2節 食をとりまく現状			0	0				
_ ا			調理実習①		0		0	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブル コーディネートなどについて体系的・系			
$\mathbf{/}$			調理基本事項		0		0	統的に理解するとともに、関連する技術			
	2章							を身に付けるようにする。 食生活の現状から食生活全般に関す			
5	栄養素のはたらきと							る課題を発見し、食生活の充実向上を 担う職業人として合理的かつ創造的に			
/	食事計画		2節 炭水化物 3節脂質		0			解決する力を養う。 食生活の充実向上を目指して自ら学			
			4節 たんぱく質 5節ビタミン 6節 ミネラル 7節水・その他		0			び、食生活の総合的なデザインとの食			
			8節 消化と吸収		0 0			育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
6			9節 食事摂取基準と食事計画		0		0	57872.0			
			10節 ライフステージと栄養計画		0	0		授業の進め方			
7			調理実習②計画		0	0		1 フードデザインに必要な要素を相互			
			W-2241 O FI C					に関連付けて理解し、実践する技術を 習得する。			
	3章							2 調理実習ノートを活用する。			
7	食品の特徴・表示・		調理実習②調理		0		0	3 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて,主体			
	安全							的に計画・実践する。			
8 • 9			1節 食品の特徴と性質		0		0				
			2節 食品の生産と流通		0		0				
9			3節 食品の選択と表示								
			4節 食品の衛生と安全					学習の方法			
؍ ا	4章		1節 調理とおいしさ		0	0					
	調理の基本		2節 調理操作・調味操作		0			平素から自身や家族、地域の人々の 食生活に興味・関心をもち、これまでの			
								自分を客観的に振り返りながら授業に参 画し、また、授業で学んだ事柄について			
10								普段の生活を通して復習を行うことで、			
/								知識・技能の定着を図る。 自身や家族の生活を維持・向上させる			
	料理様式とテーブル							ためにはどうすればよいかを常に考え、 実践し、検証する。			
	コーディネート		2節テーブルコーディネート 調理実	習(3)	0		0	さまざまな実験・実習に積極的に取り 組み、発展的な技術を身に付ける。			
			調理実習④ 発酵		0			組み、光展的な技術を身に刊ける。			
/					0	0		English a dept to			
12								評価の観点			
			<u> </u>					1 知識・技能 栄養、食品、献立、調理など、必要な要			
								素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を身に付けている。			
12	da		3節 年中行事と伝統食			0	0	2 思考・判断・表現 多面的に食生活の現状を捉えて思考を			
	5章 食をめぐる問題		1節 現代社会と食問題		_	0		深め、自ら課題を発見・解決し、より豊かな 食生活を創造できる。			
			ひとり立ちサポート教室 計画		0	0		3 主体的に学習に取り組む態度			
1								習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他			
/			ひとり立ちサポート教室 実習調理実習振り返り		0	0	0	と協働して取り組むことができる。			
<u> </u>			南理夫首振り返り 食品学実験実習(添加物)			0					
2			食品学実験実習(味)		0	\cup		評価の方法			
1			調理実習⑥これからの食生活をつ	くる	0			期末考査、ノート提出、各種レポート、授			
/								業態度、実習態度、実習時の技能や成果を総合的に判断する。			
								21. Sim H 421 - 13H1 / M0			
3											
【備考	<u> </u>		•		•		•				
*	評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛	矮県教	育委員会)による。								
I											

令和6年度 年間学習指導計画表

教科	家	庭	科目	フードデザイン	単位数	4	2	教科	担任氏名	勝日	日早	<u> </u>	印	
À	学年•組	3年1約	I.	教科書(発行所)			7	フード	デザイン	/(実	教出	版)		
月	期間	単元名	7	指導事項		評価	田の智	見点 態	予定数	実 1組	施	時	数	備考
4	$8 \sim 14$ 15 ~ 21	食生活と健康	隶	1節 食事の意義と 2節 食をとりまく現	役割 <u>]</u> 状		0	0	0 2					
	$\begin{array}{ccc} 22 & \sim & 28 \\ 29 & \sim & 5 \end{array}$			2節 食をとりまく現 調理実習① 調理基本事項 調理実習②		\bigcirc		000						
5	$6 \sim 12 \\ 13 \sim 19$	2章 栄養素のはた	らきと	調理実習②		0		0	2 2 2 0 2 2					中間考査
	$\begin{array}{ccc} 20 & \sim & 26 \\ 27 & \sim & 2 \end{array}$	食事計画		2節炭水化物 3節脂質 4節炭水化物 5調理実習③	節ビタミン	000		0						
6	$3 \sim 9$ $10 \sim 16$			6節 ミネラル 7節水・その他 8節 調理実習④ 9節 食事摂取基準とも		\circ		0	2					
7	$ \begin{array}{r} 17 \sim 23 \\ 24 \sim 30 \\ 1 \sim 3 \end{array} $			9節 食事摂取基準と負 10節 ライフステージと知 調理実習⑤計画	と 争	0	0	0	2 2 1					期末考査 期末考査
						$\overline{}$	51学	期計	21					7917K-7 <u>E</u>
7	$\begin{array}{ccc} 4 & \sim & 5 \\ 8 & \sim & 14 \\ 15 & \sim & 21 \end{array}$	3章 食品の特徴・ 生み	表示・	調理実習⑤調理 1節 食品の特徴と性	- 近	0		0	0 2 2				 	
8 • 9	$\begin{array}{ccc} 13 & \sim & 21 \\ 26 & \sim & 1 \\ 2 & \sim & 8 \end{array}$	女王		1 民 民 ロロ リ		0		0	0 2					体育祭
9	$\begin{array}{c} 9 & \sim 15 \\ 16 & \sim 22 \end{array}$			3節 食品の選択と表 調理実習⑥ ^{1節 調理とおいしさ 2節調理・}	示	0		0	2 2					
	$\begin{array}{ccc} 23 & \sim & 29 \\ 30 & \sim & 6 \end{array}$	4章 調理の基本		1節 調理とおいしさ 2節調理・ 調理実習⑦	・調味操作	0	0	0	2 2					中間考査
10	$\begin{array}{c} 7 & \sim 13 \\ 14 & \sim 20 \end{array}$			30 do 10 do 30 do 31 de					0					修学旅行
	$21 \sim 27$ $28 \sim 3$ $4 \sim 10$	料理様式とテーブルコ	ーディネート	調理実習⑧計画 2節テーブルコーディ 調理実習の大ル祭に	ネート a.けて	0	0	0	2					
11	$11 \sim 17$			調理実習⑨文化祭に「 調理実習⑩文化祭に「 調理実習⑪文化祭に「 調理実習⑪調理実習⑧調理	可けて 句けて 句けて	000		000	2 2 2 2					文化祭
12	$ \begin{array}{r} 18 \sim 24 \\ 25 \sim 1 \\ 2 \sim 3 \end{array} $			調理実習⑧調理 期末考査		00	\circ		2 1					文化祭 期末考査 期末考査
	4 0					第	52学	期計	27					
12	$\begin{array}{ccc} 4 & \sim & 8 \\ 9 & \sim & 15 \\ 16 & \sim & 22 \end{array}$	5章 食をめぐ	ぐる問題	3節 年中行事と伝統 1節 現代社会と食問	i食]題		0	0	0 2 2					
1	$6 \sim 12$ $13 \sim 19$ $20 \sim 26$			食品学実験実習①		0		0						
	$\begin{array}{ccc} 20 & \sim & 26 \\ 27 & \sim & 2 \\ \end{array}$			食品学実験実習① 食品学実験実習② これからの食生活		0	0	0	0 2 2 1 0					3年学年末考査
2	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$								0				 	学年末考査
	$\begin{array}{ccc} 11 & 20 \\ 24 & \sim & 2 \\ 3 & \sim & 9 \end{array}$								0					学年末考査
3	$10 \sim 16$ $17 \sim 23$													
						第	33学		9					
								課題 間計	13 70					

- 【備考】1 各単元末に付した[]内は、その単元で評価する観点を示す。 2 評価の観点は、愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。 3 各学期期末考査までを集計する。

教科	家庭	科目	保育基礎	単位数	C	3		
年組	3年1組・2組		教科書(発行所)				仔	R育基礎 (実教出版)
月	学習内容		学習の具体的な内容	<u> </u>	評価知	田の智	観点 態	項目
	第1章 子どもの保育							学習の目標
4			1節 保育の意義		0	0		
/			2節 保育の方法		0			保育の意義や方法、子どもの発達と生 活の特徴、子どもの福祉や文化につい
	第2章		3節 保育の環境		0			て理解し、関連する技術を身に付け、保 育や子育て支援に寄与する資質・能力
5	第2早 子どもの発達					0		を養う。乳幼児の発達の特徴を理解し、 乳幼児の生活と保育などに関する知識
5	してもの光度		1節 子どもの発達の特性		0			と技術を習得する。 また、乳幼児の健
/			2節 子どものからだの発達			0		全な成長に関心を持ち、乳幼児にかかわる意欲や能力、実践的な態度を身に
			3節 子どもの心の発達		0			つける。
6			月齢・年齢別の発達と保育		0			授業の進め方
	第4章		1節 子ども文化の意義と支える場		0			授業の進め方
7	子どもの文化		2節 子どもの遊びと表現活動		0			教科書に従って、ワークシートを記入させる。ビデオを視聴したり、保育人形を
								使い保育技術を指導する。遊びの学習
								では手作り遊具を作る、折り紙を折るなどの実習を行い技術を身につけさせる。
7			子どもの遊びを考える			0	0	
						0	0	
8 • 9	第3章		- Mr 7 101 - 11 - 17 1 - 14 - 14		_			
	子どもの生活		1節 子どもの生活と養護		0		_	
9			製作実習		0		0	
			,, 		0			学習の方法
/			n n		0			周りの生徒と共同しながら主体的に学
			" "				_	び、保育に関わる知識や技術を身につ
10			″ 2節 生活習慣の形成		0	0	0	ける。実際に乳幼児とふれあう学習な ど、実践的な学習活動をとおして保育技
10			製作実習		0			術を習得する。保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。
/			表[F天日 				0	いて心方を床め、床屋を光光する。
			II				0	
11			3節 健康管理と事故防止		0			
			文化祭に向けて		0	0		
/	第5章		文化祭を振り返って		0	0		
12	子どもの福祉		1節 子ども観		0			評価の観点
	1				1			1 知識・技能
			2節 子どもの福祉		0			保育に関する基礎的・基本的な技術 を総合的に身に付けている。
12			実習 幼児との交流				0	2 思考・判断・表現 子どもの発達や保育に関わる現状
			11				0	について理解を深めたうえで課題を発
			交流を振り返る			0		見し、思考を深め、適切に判断し、工夫して創造することで解決しようとする。
1			3節 子育て支援		0			3 主体的に学習に取り組む態度 子どもの発達や保育に関心を餅、子
_ ا								どもの健やかな発達や保育に寄与して
${\hspace{0.025cm}/\hspace{0.05cm}}$			学年末考査		0	0		いこうとする実践的な態度を身に付けて
								評価の方法
2								
/								期末考査、ノート等の提出物、授業・実 習時の態度や成果物、各種レポートな
/								どを総合的に評価する。
3								
【備考	<u> </u> ≚1				<u> </u>			
	5】 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛	(超目数)	杏禾昌仝) に トス					
	п	. 欢欢钗	ロダ界方/でかる。					